

vSphere ホスト プロファイル

VMware vSphere 6.5

VMware ESXi 6.5

vCenter Server 6.5

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001940-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2009–2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

vSphere® ホスト プロファイルについて	5
1 vSphere ホスト プロファイルの概要	7
ホスト プロファイルの使用モデル	7
リファレンス ホストの独立性	8
2 ホスト プロファイルの使用	9
ホスト プロファイルへのアクセス	9
ホスト プロファイルの作成	9
エンティティをホスト プロファイルに添付します	10
ホスト プロファイルからのエンティティの分離	11
コンプライアンスの確認	11
ホストの修正	12
ホスト プロファイルの編集	12
ホスト プロファイルの複製	15
ホストから設定をコピー	15
ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy	16
ホスト プロファイルのインポート	16
ホスト プロファイルのエクスポート	16
ホスト プロファイルへの設定のコピー	17
3 ホスト プロファイルの設定	19
ホストのカスタマイズ	19
ストレージ ホスト プロファイルの構成	24
vSphere Web Client を使用したホスト プロファイルでの 固定 IP アドレスの設定	24
インデックス	27

vSphere® ホスト プロファイルについて

『vSphere ホスト プロファイル』ドキュメントでは、ホスト プロファイルの管理に関する情報を提供します。

『vSphere ホスト プロファイル』には、vSphere Web Client でホスト プロファイルを管理および構成する方法が記載されています。

対象読者

『vSphere ホスト プロファイル』は、vSphere のホスト構成に精通する管理者を対象としています。

vSphere ホスト プロファイルの概要

ホスト プロファイル機能を使用してプロファイルを作成します。このプロファイルはホスト構成をカプセル化します。特に管理者が vCenter Server で複数のホストまたはクラスタを管理する環境では、ホストの構成を管理する場合に役立ちます。

ホスト プロファイルは、ホスト構成と構成のコンプライアンスを自動化し、統合管理するためのメカニズムを提供します。ホスト プロファイルを使用すると、反復的な手動タスクが減少するため、効率性が高まります。ホスト プロファイルは事前に設定され、検証されたリファレンス ホストの構成を取得し、管理対象オブジェクトとして設定を保存します。この設定に含まれているパラメータをカタログとして使用し、ネットワーク、ストレージ、セキュリティ、および他のホスト レベルのパラメータを設定します。ホスト プロファイルは個々のホスト、クラスタ、またはホスト プロファイルに関連付けられているすべてのホストおよびクラスタに適用できます。ホスト プロファイルをクラスタに適用すると、クラスタ内のすべてホストが影響を受け、適用されたホスト間で設定の一貫性が保たれます。

ホスト プロファイルでは、ホストまたはクラスタに関連付けられたホスト プロファイルと比較することで、ホストの構成のコンプライアンスを検証できます。

注意 vSphere 6.5 リリースの vSphere Client には、vSphere Web Client のすべての機能が実装されているわけではありません。サポートされていない機能を記載した最新のリストについては、vSphere Client ガイドの機能の更新 (<http://www.vmware.com/info?id=1413>) を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ホスト プロファイルの使用モデル \(P. 7\)](#)
- [リファレンス ホストの独立性 \(P. 8\)](#)

ホスト プロファイルの使用モデル

ホスト プロファイルのワークフローは参照ホストの概念から開始します。参照ホストは、ホスト プロファイルの抽出元となるテンプレートとして機能します。指定参照ホスト、およびそのホストへのホスト プロファイルの関連付けは、ホスト プロファイルの作成後も維持されます。

開始する前に、少なくとも 1 つのプロパティと完全に構成されたホストを持つ、既存の vSphere インストール済み環境を確保しておく必要があります。

参照ホストからホスト プロファイルを作成し、そのホスト プロファイルをホストまたはクラスタに適用して、ホスト プロファイルに対してコンプライアンスを確認するために必要な順序は次のとおりです。

- 1 参照ホストを設定して、構成します。
- 2 参照ホストからホスト プロファイルを作成します。
- 3 他のホストまたはクラスタをホスト プロファイルに添付します。
- 4 ホスト プロファイルに対してコンプライアンスを確認します。参照ホストと準拠しているホストはすべて正しく構成されています。

5 適用（修正） します。

vSphere のライセンスが供与された機能として、ホスト プロファイルは適切なライセンスがある場合にのみ使用できません。エラーが発生する場合は、適切な vSphere のライセンスがホストにあることを確認してください。

ホスト プロファイルで認証にディレクトリ サービスを使用する場合は、ディレクトリ サービスを使用するように参照ホストを構成する必要があります。『vSphere Security』ドキュメントを参照してください。

vSphere Auto Deploy

vSphere Auto Deploy でプロビジョニングされたホストの場合、vSphere Web Client はホスト プロファイルで取得されるホスト構成全体を所有しています。通常は、ホスト プロファイル情報はすべての構成情報を保存するのに十分に対応できます。Auto Deploy でプロビジョニングしたホストが起動する際、ユーザーの入力が求められる場合があります。Auto Deploy の詳細については、『vSphere のインストールとセットアップ』ドキュメントを参照してください。

リファレンス ホストの独立性

ホスト プロファイルのタスクを実行するために専用のリファレンス ホストを使用する必要はありません。

ホスト プロファイルを作成する場合は、指定した ESXi リファレンス ホストから構成情報を抽出します。vSphere の以前のリリースでは、編集、インポート、エクスポートなど、ホスト プロファイルの特定のタスクを実行する場合、参照ホストを使用する必要がありました。vSphere 6.0 では、これらのタスクを実行するために専用のリファレンス ホストを使用する必要はなくなりました。

リファレンス ホストが必要なホスト プロファイル タスクの場合は、ホスト プロファイルと互換性のある ESXi ホストが割り当てられ、リファレンス ホストの役割を果たします。

場合によっては、これらのタスクの実行中にホスト プロファイルの検証を行う、互換性のあるホストが利用できないことがあります。検証が不要なホスト プロファイルにわずかな変更を加えた場合は、検証をスキップすることができます。ホスト検証をスキップするよう選択した場合は、有効なリファレンス ホストがプロファイルに関連付けられていないことを示す警告が表示されます。その後、処理を進めて、タスクを完了できます。

この機能が導入されたことで、ユーザーは vSphere Web Client からリファレンス ホストを編集または変更できなくなりました。リファレンス ホストの選択は実行時に行われ、進行中のタスクに関する通知は vCenter Server に表示されません。

ホスト プロファイルの使用

このセクションでは、ホスト プロファイルの基本タスクの一部を実行する方法について説明します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ホスト プロファイルへのアクセス \(P. 9\)](#)
- [ホスト プロファイルの作成 \(P. 9\)](#)
- [エンティティをホスト プロファイルに添付します \(P. 10\)](#)
- [ホスト プロファイルからのエンティティの分離 \(P. 11\)](#)
- [コンプライアンスの確認 \(P. 11\)](#)
- [ホストの修正 \(P. 12\)](#)
- [ホスト プロファイルの編集 \(P. 12\)](#)
- [ホスト プロファイルの複製 \(P. 15\)](#)
- [ホストから設定をコピー \(P. 15\)](#)
- [ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy \(P. 16\)](#)
- [ホスト プロファイルのインポート \(P. 16\)](#)
- [ホスト プロファイルのエクスポート \(P. 16\)](#)
- [ホスト プロファイルへの設定のコピー \(P. 17\)](#)

ホスト プロファイルへのアクセス

ホスト プロファイルのメイン ビューには、使用できるプロファイルがすべて一覧で表示されます。システム管理者は、ホスト プロファイルのメイン ビューを使用して、ホスト プロファイルでの操作の実行やプロファイルの構成を行うこともできます。

手順

- 1 vSphere Web Client のホームで、[ポリシーおよびプロファイル] をクリックします。
- 2 [ホスト プロファイル] をクリックします。

ホスト プロファイルの作成


指定したリファレンス ホストの構成を抽出してホスト プロファイルを作成します。

注意 特定のホストに移動してホスト プロファイルを抽出することもできます。

開始する前に

稼働中の vSphere 環境と、リファレンス ホストとして機能する、完全かつ適切に構成されたホストが少なくとも 1 台あることを確認します。

手順

- 1 ホスト プロファイル ビューに移動します。
- 2 [ホストからプロファイルを抽出] アイコン () をクリックします。
- 3 リファレンス ホストとなるホストを選択し、[次へ] をクリックします。
有効なホストを選択する必要があります。
- 4 新しいプロファイルの名前および説明を入力して、[次へ] をクリックします。
- 5 新しいプロファイルの概要情報を確認し、[終了] をクリックします。


新しいプロファイルがプロファイル リストに表示されます。

注意 ホスト プロファイルは、オフラインまたは認識されないデバイスをキャプチャしません。ホスト プロファイルの抽出後にオフライン デバイスを変更を加えても、コンプライアンス チェックの結果に違いは生じません。

エンティティをホスト プロファイルに添付します

リファレンス ホストからホスト プロファイルを作成した後、ホスト プロファイルにホストまたはクラスタを添付する必要があります。

手順


- 1 ホスト プロファイルのメイン ビューのプロファイル リストから、ホストまたはクラスタに適用するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [ホストおよびクラスタにホスト プロファイルを添付/分離] アイコン () をクリックします。
- 3 展開されたリストからホストまたはクラスタを選択し、[適用] をクリックします。
添付されたエンティティのリストにホストまたはクラスタが追加されます。
- 4 (オプション) 表示されたすべてのホストおよびクラスタをプロファイルに添付するには、[すべて添付] をクリックします。
- 5 [ホストのカスタマイズを省略] を有効にした場合は、このプロセスでホストをカスタマイズする必要はありません。
このプロセスでホストのカスタマイズを省略した場合は、ホスト プロファイルを修正する前にホストのカスタマイズを編集またはインポートする必要があります。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 (オプション) ホスト プロファイル ポリシーのユーザー入力パラメータを更新または変更するには、ホストをカスタマイズします。[ホストのカスタマイズを省略] が有効になっている場合は、この手順が表示されません。
[「ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy \(P. 16\)」](#) を参照してください。
- 8 [終了] をクリックして、ホストまたはクラスタからのプロファイルの分離を完了します。

ホスト プロファイルからのエンティティの分離

ホストまたはクラスタから設定の関連付けを解除するには、そのホストまたはクラスタをホスト プロファイルから分離する必要があります。

ホスト プロファイルがクラスタに添付されている場合、そのクラスタ内のホストにもホスト プロファイルが添付されます。しかし、ホスト プロファイルがクラスタから分離されても、ホストまたはクラスタ内のホストと、ホスト プロファイルの関連付けはそのまま残ります。


手順

- 1 ホスト プロファイルのメイン ビューにあるプロファイル リストから、ホストまたはクラスタから分離するホスト プロファイルを選択します。
- 2 [ホストおよびクラスタに対するホスト プロファイルの添付/分離] アイコン () をクリックします。
- 3 展開されたリストからホストまたはクラスタを選択し、[分離] をクリックします。
添付されたエンティティのリストにホストまたはクラスタが追加されます。
- 4 (オプション) [すべて分離] をクリックして、リストされたすべてのホストとクラスタをプロファイルから分離します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [終了] をクリックして、ホストまたはクラスタからのプロファイルの分離を完了します。

コンプライアンスの確認

添付されたホスト プロファイルに対するホストまたはクラスタのコンプライアンスを確認できます。また、ホストとホスト プロファイルで指定された構成パラメータの違いを特定できます。

手順

- 1 ホスト プロファイルに移動します。
- 2 [ホスト プロファイル コンプライアンスの確認] アイコン () をクリックします。

[オブジェクト] タブで、コンプライアンス ステータスが、「準拠」、「不明」、または「非準拠」のいずれかに更新されます。

「非準拠」ステータスは、プロファイルとホスト間での特定の不整合が検出されたことを示します。これを解決するには、ホストを修正する必要があります。「不明」ステータスは、ホストのコンプライアンスを確認できなかったことを示します。この問題を解決するには、ホスト プロファイルを使用してホストを修正します。

注意 ホスト プロファイルは、オフラインまたは認識されないデバイスをキャプチャしません。ホスト プロファイルの抽出後にオフライン デバイスを変更しても、コンプライアンス チェックの結果に違いは生じません。

次に進む前に

コンプライアンスのエラーの詳細については、[オブジェクト] タブから前回のコンプライアンス チェックで1つ以上エラーが見つかったホスト プロファイルを選択します。コンプライアンス エラーのあるホストとホスト プロファイルとの間で異なるパラメータを詳細に表示するには、[監視] タブをクリックし、[コンプライアンス] ビューを選択します。次にオブジェクト階層を展開し、エラーのあるホストを選択します。異なるパラメータが階層の下の [コンプライアンス] ウィンドウに表示されます。

ホストの修正

コンプライアンス障害が発生した場合は、修正機能を使用してホスト プロファイル設定をホストに適用します。この処理によって、すべてのホスト プロファイル管理対象パラメータは、ホストに添付されているプロファイルの値に変更されません。

開始する前に

ホストにプロファイルが添付されていることを確認します。

手順

- 1 ホストの修正に使用するプロファイルに移動します。
- 2 ホスト プロファイルを右クリックして、[修正] を選択します。

注意 特定のホスト プロファイル ポリシー設定では、修正後にホストを再起動する必要があります。その場合は、ホストをメンテナンス モードにするためのプロンプトが表示されます。修正前に、ホストをメンテナンス モードにするよう要求される場合もあります。完全に自動化された DRS クラスタ内のホストは、修正時にメンテナンス モードになります。ホストを修正するにはメンテナンス モードにする必要があります。DRS クラスタが完全に自動化されていない場合、修正前にメンテナンス モードに移行していないと、修正プロセスが停止します。

- 3 ホスト プロファイルを使用して修正するホストを選択します。
選択した各ホストにホスト プロファイルが適用されます。
- 4 ホストのプロパティにカスタム値を指定するか、ホストのカスタム ファイルを選択してインポートします。
- 5 (オプション)ホストをカスタマイズして [次へ] をクリックし、ホスト プロファイル ポリシーのユーザー入力パラメータを更新または変更します。

vSphere Auto Deploy の詳細については、「[ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy \(P. 16\)](#)」を参照してください。
- 6 [修正の事前チェック] をクリックして、選択したホストの修正準備状況を確認します。
このチェックを行うと、ホストで実行されるタスクのリストが生成されます。
- 7 修正プロセスの完了後にホストの再起動が必要な場合は、チェックボックスをオンにしてホストを再起動します。修正プロセス後にホストを手動で再起動する場合は、このチェックボックスをオンにしないでください。
- 8 ホスト プロファイルの修正に必要なタスクを確認し、[終了] をクリックします。

コンプライアンス ステータスが更新されます。

ホスト プロファイルの編集



ホスト プロファイルのポリシーの表示および編集、コンプライアンスを確認するポリシーの選択、およびポリシーの名前や説明の変更ができます。

手順

- 1 編集するホスト プロファイルに移動し、[構成] タブをクリックします。
- 2 [プロファイルの編集] をクリックします。
- 3 (オプション) プロファイルの名前と説明を変更して [次へ] をクリックします。

- 4 ホスト プロファイルの構成オプションは、機能またはリソースのカテゴリに従って階層表示されます。各カテゴリを展開して、特定のポリシーや設定を表示または編集します。

ホスト プロファイル ポリシーを編集する詳細な手順については、「[ポリシーの編集 \(P. 13\)](#)」を参照してください。コンプライアンス チェックや修正に対してポリシーを有効または無効にする詳細な手順については、「[ホスト プロファイル コンポーネントの無効化 \(P. 15\)](#)」を参照してください。

- 5 [表示] メニューで、[すべて]または[お気に入り]を選択して、すべてのホスト プロファイル構成を表示するか、必要な構成のみを表示します。構成を選択し、 アイコンをクリックして、構成をお気に入りとしてマークします。
 アイコンをクリックすると、構成のお気に入りのマークを解除できます。

[お気に入り]を選択すると、お気に入りとしてマークされた構成のみが表示されます。

- 6 検索フィールドでは、表示する構成の名前と値をフィルタリングできます。

たとえば、**SNMP**と入力します。これにより、[SNMP]が含まれるすべての構成が表示されます。

- 7 [次へ]をクリックします。

- 8 (オプション)ホストをカスタマイズします。

このプロファイルの使用可能な構成値を変更します。

注意 ホストのカスタマイズ設定ページは、ホストのカスタマイズが必要な設定を変更した場合にのみ表示されます。

- 9 [終了]をクリックします。

[最近のタスク]ステータスで「ホスト プロファイルを更新します」タスクが完了したら、変更が実行されます。タスクの完了前にプロファイルの修正を試みると、プロファイル構成には変更が反映されません。

ポリシーの編集

ポリシーには、特定の構成設定を適用する方法が記述されています。特定のホスト プロファイルに含まれるポリシーを編集できます。

ホスト プロファイルを編集するときに、ホスト プロファイル構成の階層を展開して、ホスト プロファイルを構成するサブプロファイルのコンポーネントを表示できます。特定のパラメータを見つけやすくするため、これらのコンポーネントは機能グループやリソース クラスごとに分類されています。各サブプロファイル コンポーネントには、ポリシーやコンプライアンス チェックのほか、1つ以上の属性やパラメータが含まれます。

各ポリシーは1つ以上のオプションで構成され、各オプションには1つ以上のパラメータが含まれています。各パラメータは1つのキーと1つの値で構成されます。値は、integer 型、string 型、string 配列、または integer 配列などの基本的な型のいずれかになります。

注意 現在、このリリースで廃止されたポリシー オプション、ポリシー、サブプロファイルを削除または置き換える方法がありません。古いホスト プロファイルを引き続き使用できるように、これらの廃止されたポリシーにメタデータが追加されていますが、ホスト プロファイルの廃止されていない部分のみを使用して新しいホスト プロファイルが抽出されます。

表 2-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
詳細設定	詳細オプション、エージェント仮想マシン、DirectPath I/O、ホスト ファイル、電力システム、システム イメージ キャッシュ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 詳細設定がデフォルト設定と同じ場合、ホスト プロファイルでは詳細設定はチェックされません。vCenter Server では、変更された、またはデフォルト値とは異なる詳細設定だけがコピーされます。さらに、コンプライアンス チェックの対象は、コピーされた設定に限定されます。 ■ ホスト プロファイルでは、ESXi ホストの仮想マシンパススルーに対する PCI デバイスの構成はサポートされません。
CIM インディケーションのサブスクリプション	CIM-XML インディケーションのサブスクリプション	

表 2-1. ホスト プロファイル サブプロファイル構成のサブセット (続き)

コンポーネント カテゴリ	設定	注記および例
全般システム設定	コンソール、コア ダンプ、デバイス エイリアス、ホスト キャッシュ、カーネル モジュール、管理エージェント、システム リソース プール、システム スワップ、vFlash ホスト スワップ キャッシュ	日時の設定： <ul style="list-style-type: none"> ■ タイム ゾーンに UTC 文字列を入力します。たとえば、米国の太平洋タイム ゾーンの場合、「America/Los_Angeles」と入力します。 ■ デフォルトのタイム ゾーンは、vSphere Web Client マシンのローカルの時刻と場所に設定されます。 ■ ネットワーク時間プロトコル (NTP) を正しく設定します。NTP 設定は、ホストの [構成] タブで設定できます。[時間の構成] ([システム] の下) をクリックします。[編集] をクリックして時刻設定を行います。
ネットワーク	vSwitch、ポート グループ、物理 NIC の速度、セキュリティと NIC チーミングのポリシー、vSphere Distributed Switch、および vSphere Distributed Switch のアップリンク ポート。	ネットワーク サブプロファイルで DHCPv6 が有効な場合は、ファイアウォール サブプロファイルにある対応するルールセットを手動で有効にしてください。
セキュリティ	ファイアウォール、セキュリティ設定、サービス	
ストレージ	NMP (ネイティブマルチパス)、PSA (プラグ可能ストレージ アーキテクチャ)、FCoE および iSCSI アダプタ、NFS ストレージを含めたストレージ オプションを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ vSphere CLI を使用して、リファレンス ホストで NMP および PSA ポリシーを設定または変更し、そのホストからホスト プロファイルを抽出します。プロファイル エディタを使用してポリシーを編集する場合は、コンプライアンスに準拠しない事態を避けるために、NMP ポリシーと PSA ポリシー間の相互関係、個々のポリシーを変更したことで生じる結果について理解しておく必要があります。NMP および PSA の詳細については、[vSphere のストレージ] ドキュメントを参照してください。 ■ リファレンス ホストからホスト プロファイルを抽出する前にデバイス属性を変更するルールを追加します。ホスト プロファイルにホストを添付した後、デバイスのパスをマスクしたり、デバイスを SSD としてマークする SATP ルールを追加するなど、プロファイルを編集してデバイス属性を変更する場合は、変更を適用するためにホストを再起動するように促すメッセージが表示されます。ただし、属性が変わったため、再起動後、コンプライアンスに準拠しない事態が起こります。再起動前にホスト プロファイルがデバイスの属性を抽出するため、再起動の後に何らかの変化があると、それらの変化を特定して評価し、非準拠として報告します。

ほかのプロファイル構成のカテゴリには、ユーザー グループ、認証、カーネル モード、DCUI キーボード、ホスト キャッシュ設定、SFCB、リソース プール、ログイン バナー、SNMP エージェント、電力システム、および CIM インディケーション サブスクリプションがあります。

手順

- 1 ホスト プロファイルを編集します。
- 2 編集するポリシーに到達するまで、サブプロファイルを展開します。
- 3 ポリシーを選択します。
ポリシーのオプションとパラメータが [ホスト プロファイルの編集] ウィンドウの右側に表示されます。
- 4 ポリシーに変更を加えます。

ホスト プロファイル コンポーネントの無効化

コンプライアンス チェック中に、ホスト プロファイル コンポーネントを適用または考慮するかどうかを指定できます。これにより、システム管理者は、重要度の低い属性の考慮を排除したり、ホスト プロファイルの一部がホスト間で変化する可能性のある値を無視したりすることができます。

手順

- 1 ホスト プロファイルを編集します。
- 2 目的のコンポーネントまたはコンポーネント要素に達するまで、ホスト プロファイル コンポーネントの階層を展開します。
- 3 修正中に適用しないコンポーネントまたはプロファイルのコンプライアンス チェック中に考慮しないコンポーネントの横にあるチェックボックスを無効にします。

注意 チェック ボックスは、デフォルトで有効になっています。チェック ボックスを無効にしてこのコンポーネントまたはコンポーネント要素のコンプライアンスの確認または適用を修正中に行わないようにした場合でも、コンプライアンス チェックが有効になっている別のポリシーは適用または確認されます。

ホスト プロファイルの複製

ホスト プロファイルの複製は、既存のホスト プロファイルのコピーです。

手順

- 1 複製するプロファイルに移動します。
- 2 [ホスト プロファイルの複製] アイコン (📄) をクリックします。
- 3 重複するホスト プロファイルの名前および説明を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 新しいプロファイルの概要情報を確認し、[終了] をクリックします。

プロファイルのクローンがホスト プロファイル リストに表示されます。

ホストから設定をコピー

参照ホストの構成が変更された場合、参照ホストの新しい構成と一致するようにホスト プロファイルを更新できます。

ホスト プロファイルを作成した後、プロファイルを段階的に更新できます。ホスト プロファイルに変更を加える場合は、次の2つの方法の利点と制限を検討してください。

- vSphere Web Client のホストの構成を変更し、そのホストの設定をプロファイルにコピーする。既存のプロファイル内の設定は、ホストの設定と一致するように更新されます。この方法を使用すると、プロファイルに添付されている他のホストに構成をロールする前に、単一ホスト上の構成を検証できます。
- ホスト プロファイルを編集して、プロファイルを直接更新する。この方法では、より包括的にすばやく変更を修正できます。

手順

- 1 ホスト プロファイルに移動します。
- 2 [ホストから設定をコピー] をクリックします。
- 3 構成設定のコピー元となるホストを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy

ホスト プロファイルは、vSphere Auto Deploy と連動し、仮想スイッチ、ドライバ設定、起動パラメータなどの構成状態が完全で予想どおりの物理 ESXi ホストをプロビジョニングします。

Auto Deploy でプロビジョニングされたホストはステートレスと見なされるため、構成状態の情報はホストに保存されません。代わりに、参照ホストを作成して希望の設定で完全に構成します。次に、この参照ホストを使用してホスト プロファイルを作成します。次に、PowerCLI で Auto Deploy ルール エンジンを使用してホスト プロファイルを新しいデプロイルールに関連付けます。これで、新しいホストが Auto Deploy を通してプロビジョニングされると、自動的にホスト プロファイルが適用されるようになります。

これらのホストへの修正は、ステートフルにデプロイされたホストと同じです。ホスト プロファイルの適用時に、ユーザーは、ホストをカスタマイズしホスト プロファイルの作成中に指定されるポリシーへの応答を入力するように求められます。

注意 Auto Deploy を介して ESXi をデプロイする場合は、ログをリモート サーバに保存するように syslog を構成します。手順については、[vSphere のインストールとセットアップ] ドキュメントの「ホスト プロファイル インターフェイスからの syslog の設定」を参照してください。

詳細については、vSphere Auto Deploy ドキュメントの「Auto Deploy の参照ホストの設定」を参照してください。

ホスト プロファイルのインポート

プロファイルは、VMware プロファイル形式（.vpf）のファイルからインポートできます。

ホスト プロファイルをエクスポートしても、管理者およびユーザー プロファイルのパスワードはエクスポートされません。このセキュリティ措置により、プロファイルをエクスポートしたときにパスワードがプレーン テキストにエクスポートされることがなくなります。プロファイルをインポートしたあとにパスワードの値を再入力するよう求められ、それからパスワードがホストに適用されます。

手順

- 1 ホスト プロファイル ビューに移動します。
- 2 ホスト プロファイルのインポート アイコン (📁) をクリックします。
- 3 [参照] をクリックし、インポートする VMware プロファイル形式のファイルを参照します。
- 4 インポートするホスト プロファイルの [名前] および [説明] を入力し、[OK] をクリックします。

インポートされたプロファイルがプロファイル リストに表示されます。

ホスト プロファイルのエクスポート

プロファイルは、VMware プロファイル形式（.vpf）のファイルにエクスポートできます。

ホスト プロファイルをエクスポートしても、管理者およびユーザー プロファイルのパスワードはエクスポートされません。このセキュリティ措置により、プロファイルをエクスポートしたときにパスワードがプレーン テキストにエクスポートされることがなくなります。プロファイルをインポートしたあとにパスワードの値を再入力するよう求められ、それからパスワードがホストに適用されます。


手順

- 1 エクスポートするホスト プロファイルに移動します。
- 2 プロファイルを右クリックし、[ホスト プロファイルのエクスポート] を選択します。
- 3 プロファイルをエクスポートするファイルの場所を選択し、名前を入力します。
- 4 [保存] をクリックします。

ホスト プロファイルへの設定のコピー

ホスト プロファイルを変更したら、インベントリ内の他のホスト プロファイルにこれらの変更を適用することができます。

手順

- 1 ホスト プロファイルに移動します。
- 2 プロファイルを右クリックして [ホスト プロファイルへの設定のコピー] を選択するか、 アイコンをクリックします。
- 3 他のホスト プロファイルにコピーする設定を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 選択した設定で上書きされるターゲット ホスト プロファイルを選択して、[次へ] をクリックします。
ホスト プロファイルの設定間の違いが結果内に表示されます。
- 5 [終了] をクリックします。

ホスト プロファイルの設定

このセクションでは、ホスト プロファイル エディタを使用してホスト プロファイルを設定する方法を説明します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ホストのカスタマイズ \(P. 19\)](#)
- [ストレージ ホスト プロファイルの構成 \(P. 24\)](#)
- [vSphere Web Client を使用したホスト プロファイルでの 固定 IP アドレスの設定 \(P. 24\)](#)

ホストのカスタマイズ

リファレンス ホストにホスト プロファイルを作成すると、共有属性を使用した複数のホストをカスタマイズできます。ホストを個別にカスタマイズするには、各ホストでユーザーに入力を求めるように、ホスト プロファイル内のいくつかのフィールドを設定します。

ホスト プロファイルを使用すると、リファレンス ホストのストレージ設定や Syslog 設定などの情報を事前に指定できます。また、作成したホスト プロファイルは、同じ設定を持つ一連のターゲット ホストに適用できます。さらに、ホスト プロファイルを使用して、ホスト固有の設定を指定することができます。この場合、Auto Deploy でホストをプロビジョニングすると、ホストはメンテナンス モードで起動します。ホストを修正するか、ホストのカスタマイズをリセットして、入力プロンプトを表示します。ユーザーが入力した情報はシステムに保存され、次のホスト起動時に使用されます。

ユーザー入力を求めるようにホスト プロファイルが設定されており、ホストのカスタマイズをリセットする場合、表示されるダイアログに値を指定する必要があります。値を指定しないと、エラーが発生します。

表 3-1. iSCSI のユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
iSCSI のプロファイルが含まれるシステムにホスト プロファイルを適用する場合は、いくつかのプロパティの指定が求められます。それらのプロパティの多くには、システムのデフォルト値が適用されます。一部のプロパティでは、値を指定しないとエラーが発生します。	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ストレージ構成] > し、[iSCSI イニシエータ構成] をクリックします。 2 すでに有効になっているイニシエータのフォルダを選択し、イニシエータを設定します。 3 イニシエータを設定します。ホストのカスタマイズの一部として、多くのフィールドでユーザー入力が求められます。
IQN 名	iSCSI の設定で IQN 名が使用されている場合、ホスト プロファイルを適用する際に入力が求められます。名前を指定するまで続行することはできません。
CHAP 情報	CHAP 認証を要求するように iSCSI を設定している場合は、ホスト プロファイルを適用する際に、ユーザー名やシークレットを含む CHAP 情報の入力を求められます。名前を指定するまで続行することはできません。

表 3-2. ストレージのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>固定のパス選択ポリシー (PSP) を設定する際に、固定 PSP を使用するストレージ アレイのアダプタおよびターゲット ID の入力を求めるプロンプトが表示されるようにします。</p>	<p>このオプションは、固定 PSP を使用するようにアダプタが設定されている場合にのみ使用できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[ストレージ構成] をクリックします。 2 [ネイティブ マルチパス (NMP)] をクリックします。 3 [パス選択ポリシー (PSP) の構成] をクリックします。 4 [優先パス] ウィンドウで、[ユーザーにホスト上のアダプタ ID とターゲット ID を入力するプロンプトを表示] を選択します。
<p>FCoE アダプタのアクティベーションを、ユーザー指定の MAC アドレスに基づいて構成します。</p>	<p>このオプションは、アクティベーション プロファイルが存在する場合にのみ設定できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[ストレージ構成] をクリックします。 2 [ソフトウェア FCoE 構成] をクリックします。 3 [アダプタの構成] をクリックします。 4 [アクティベーション プロファイル] を選択し、[ポリシー プロファイル] をクリックします。 5 ドロップダウン メニューから [アダプタの MAC アドレスに基づくアクティベーション ポリシー] を選択します。

表 3-3. セキュリティのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
ホストが最初に起動するときに、ESXi ホストの管理者パスワードを要求します。	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[セキュリティおよびサービス] をクリックします。 2 [セキュリティの設定] > [セキュリティ構成] の順にクリックします。 3 右側のパネルで、[管理者パスワード] ドロップダウン メニューから [ユーザーが入力したパスワードを使用して管理者パスワードを構成する] を選択します。
ESXi ホストのユーザーは事前に構成しますが、ユーザーのパスワードは、ホストの初回起動時に各ホストで要求します。	<p>このタスクは、ユーザー設定がすでに存在している場合にのみ実行できます。オプションのいずれかを選択してユーザーを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [固定ユーザー構成を割り当て] は、ESX/ESXi 4.1 システムとの互換性を提供するためのオプションで、パスワードが暗号化されずに表示されます。 ■ [詳細な固定ユーザー構成を割り当て] は、ESXi 5.0 以降のシステムのユーザー向けのオプションです。 ■ [プロファイルにユーザー構成を指定 (ホスト構成中にパスワードの入力が必要)] を選択すると、ユーザーに関する情報を指定し、各ホストでパスワードの入力プロンプトを表示できます。
ホストが Active Directory ドメインに参加するとき、ユーザーに認証情報の入力を要求します。	<ol style="list-style-type: none"> 1 固定ドメインを使用するように認証の構成プロファイルを設定します。 <ol style="list-style-type: none"> a [ホスト プロファイルの編集] を選択して、[セキュリティおよびサービス] をクリックします。 b [セキュリティの設定] > [認証の構成] の順にクリックします。 c [Active Directory の構成] をクリックします。 d [ドメイン名] ドロップダウン メニューで、[固定ドメイン名を構成] を選択します。 2 ドメインへの参加方法の入力をユーザーに求めるように設定します。 <ol style="list-style-type: none"> a [ホスト プロファイルの編集] を選択して [セキュリティおよびサービス] をクリックし、[認証の構成] をクリックします。 b [Active Directory の構成] をクリックします。 c [ドメインへの参加方法] ドロップダウン メニューで、[ユーザー指定の AD 認証情報を使用してホストをドメインに参加] を選択します。

表 3-4. ネットワークのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>ポート グループの MAC アドレスの入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定の MAC アドレスの入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] > [ホスト ポート グループ] の順にクリックします。 2 [管理ネットワーク] をクリックします。 3 [vmknics の MAC アドレスを決定する方法を確認] フィールドで、システムが MAC アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の MAC アドレス] ■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに MAC アドレスを入力するプロンプトを表示]
<p>プロファイルを適用する ESXi ホストごとに、IPv4 アドレスの入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定の IPv4 アドレスの入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] > [ホスト ポート グループ] の順にクリックします。 2 [管理ネットワーク] > [IP アドレス設定] の順にクリックします。 3 [IPv4 アドレス] フィールドで、システムが IPv4 アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv4 アドレス] ■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv4 アドレスを入力するプロンプトを表示]
<p>プロファイルを適用する ESXi ホストごとに、IPv6 アドレスの入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定の IPv6 アドレスの入力を求めることも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] > [ホスト ポート グループ] の順にクリックします。 2 [管理ネットワーク] > [IP アドレス設定] の順にクリックします。 3 [固定 IPv6 アドレス] フィールドで、システムが IPv6 アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv6 アドレス] ■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv6 アドレスを入力するプロンプトを表示]
<p>ホストの DNS 名を入力をユーザーに求めます。システム プロンプトを必ず表示して、ユーザー指定のホスト名を入力を求めるとも、デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示することもできます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ホスト プロファイルの編集] を選択して [ネットワーク構成] > [DNS 構成] の順にクリックします。 2 [ホスト名] フィールドで、システムが DNS 設定をどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [デフォルトが利用不能の場合、ユーザーにホスト名を入力するプロンプトを表示] ■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定のホスト名]
<p>Distributed Switch の MAC アドレス、ポート グループ、またはサービスの 1 つを入力するようにユーザーに求めます。ホストの仮想 NIC フォルダのアイコンを右クリックし、[サブプロファイルの追加] アイコンをクリックして設定の適用先コンポーネントを決定します。</p> <p>デフォルト値が設定されていない場合にのみプロンプトを表示するか、必ずプロンプトを表示するかを指定できます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 [ネットワーク構成] を開きます。 2 [ホスト仮想 NIC] をクリックします。 3 [vmknics の MAC アドレスを決定する方法を決定] フィールドで、システムが分散スイッチの MAC アドレスをどのように処理するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [構成を適用中に使用されるユーザー指定の MAC アドレス] ■ [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに MAC アドレスを入力するプロンプトを表示]

表 3-4. ネットワークのユーザー入力を求めるホスト プロファイル オプション (続き)

ユーザー入力を要求する情報	ホスト プロファイル オプションの設定方法
<p>Distributed Switch の IPv4 アドレス、ポート グループ、またはサービスの 1 つを入力するようにユーザーに求めます。ホストの仮想 NIC フォルダのアイコンを右クリックし、[サブプロファイルの追加] アイコンをクリックして設定の適用先コンポーネントを決定します。</p> <p>デフォルト値が設定されていない場合のみプロンプトを表示するか、必ずプロンプトを表示するかを指定できます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワーク構成] を開きます。 [ホスト仮想 NIC] をクリックします。 [IP アドレス設定] をクリックします。 [IPv4 アドレス] フィールドで、システムが分散スイッチの IPv4 アドレスどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv4 アドレス] [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv4 アドレスを入力するプロンプトを表示]
<p>Distributed Switch の IPv6 アドレス、ポート グループ、またはサービスの 1 つを入力するようにユーザーに求めます。ホストの仮想 NIC フォルダのアイコンを右クリックし、[サブプロファイルの追加] アイコンをクリックして設定の適用先コンポーネントを決定します。</p> <p>デフォルト値が設定されていない場合のみプロンプトを表示するか、必ずプロンプトを表示するかを指定できます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> [ネットワーク構成] を開きます。 [ホスト仮想 NIC] を開きます。 [IP アドレス設定] を開きます。 [固定 IPv6 アドレス] フィールドで、システムが分散スイッチの IPv6 アドレスをどのように処理するか選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [構成を適用中に使用されるユーザー指定の IPv6 アドレス] [デフォルトが利用不能の場合は、ユーザーに IPv6 アドレスを入力するプロンプトを表示]

ホストのカスタマイズのエクスポート

ホスト プロファイルにカスタム属性が含まれている場合は、その属性をデスクトップの **.CSV** ファイルにエクスポートできます。

セキュリティ上の理由から、パスワードなどの機密データはエクスポートされません。

手順

- ホスト プロファイルに移動します。
- ホスト プロファイルを右クリックして、[ホストのカスタマイズのエクスポート] を選択します。
- カスタム ファイルの保存場所を選択します。
ファイルは **.csv** ファイルとして保存されています。
- [保存] をクリックします。

次に進む前に

このファイルをデスクトップに保存したら、ファイルを手動で編集して、カスタム値を後で適用できるように保存します。

ホストのカスタマイズの編集

ホスト プロファイルに接続された特定のホスト、またはホスト プロファイルに添付されたクラスタのホストのカスタマイズを編集できます。

手順

- ホスト プロファイルに移動します。
- ホスト プロファイルを右クリックして、[ホストのカスタマイズの編集] を選択します。
- カスタマイズを編集するホストを選択して、[次へ] をクリックします。
- ホスト設定の値を編集します。
- (オプション) [参照] をクリックして、デスクトップから **.csv** ファイルをインポートします。
.csv ファイルをインポートすると、フィールドはファイル内の情報を使用して更新されます。
- [終了] をクリックします。

ストレージ ホスト プロファイルの構成

クラスタ間で共有されていないが vSphere ストレージ スタックがローカルとして検出できないストレージ デバイスを使用する場合、ホスト プロファイルの適用時にコンプライアンス エラーが発生する可能性があります。

共有されていないストレージ デバイスを使用することで発生したコンプライアンス エラーを解決するには、アップグレードしたプラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) およびネイティブ マルチパス プラグイン ホスト プロファイル ポリシーを使用します。

注意 **vm-support** コマンドを実行して取得する ESXi 診断データには、ストレージ ホスト プロファイル、PSA、NMP、仮想ボリューム データなどのホスト プロファイル情報が含まれます。パスワードなどの機密情報は収集されません。

開始する前に

参照ホストからホスト プロファイルを抽出します。構成方法については、「[ホスト プロファイルの作成 \(P. 9\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 ローカルとして検出されない SAS デバイスの場合、[ストレージ構成] - [プラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) 構成] - [PSA デバイス共有] - [<デバイス名>] を選択します。
- 2 クラスタ全体で共有されていない各デバイスで、[デバイスがクラスタ全体で共有されています] を無効にします。

PSA デバイスの [Is Shared Clusterwide] 値を使用すると、ホスト プロファイルで構成する必要があるクラスタ内のデバイスを特定するのに便利です。この値をクラスタ内のデバイスに正しく設定すると、非共有デバイスに起因する準拠エラーが排除されます。

デフォルトでは、この値は、デバイスの [Is Local] 設定を反映するために設定されます。たとえば、[Is Local] が [True] に設定されたデバイスがあるとします (この設定はデフォルトで無効です)。このように設定されたデバイスは、コンプライアンスの検証でストレージ ホスト プロファイルによって無視されます。

ESXi Shell で **esxcli storage core device list** コマンドを実行すると、デバイスの [Is Local] 設定を見つけることができます。このコマンド、およびディスクまたは LUN を識別する方法の詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/1014953> を参照してください。

- 3 SAN 起動 LUN に対して [Is Shared Clusterwide] を無効にしないでください。ESXi 6.0 では、SAN 起動 LUN デバイスは、期待どおりに処理されます。これらのデバイスに対して [Is Shared Clusterwide] が無効になっていると、以前のリリースの SAN 起動 LUN デバイスを原因とする準拠エラーは発生しませんが、クラスタ内の他のホストにデバイス構成が適用されません。[ストレージ構成] - [プラグイン可能なストレージ アーキテクチャ (PSA) 構成] - [ホストの起動デバイスの構成] を選択し、この LUN が正しくキャプチャされていることを確認します。
- 4 共有状態の変更が参照ホストに反映されるように、参照ホストのプロファイルを修正します。

プロファイルを再抽出する必要がある場合 (共有 SAN 起動 LUN をクラスタに追加する場合など)、以前に構成したデバイスの共有を再構成する必要はありません。

vSphere Web Client を使用したホスト プロファイルでの 固定 IP アドレスの設定

デフォルトでは、vSphere Auto Deploy でプロビジョニングされるホストには、DHCP サーバから DHCP アドレスが割り当てられます。vSphere Auto Deploy が提供するホストのカスタマイズ メカニズムを使用して、ホストに固定 IP アドレスを割り当てることができます。

開始する前に

- vSphere Auto Deploy 環境をセットアップする。
- vSphere Auto Deploy を使用してホストを起動する。

- ホストからホスト プロファイルを抽出する。

手順

- 1 vSphere Web Client で vSphere Auto Deploy ホストを管理する vCenter Server に移動して、[ポリシーおよびプロファイル] > [ホスト プロファイル] の順に選択します。
- 2 抽出したホスト プロファイルを右クリックし、[設定の編集] をクリックします。
- 3 デフォルトの名前と説明を使用して、[次へ] をクリックします。
- 4 [ネットワーク構成] - [ホスト ポート グループ] - [管理ネットワーク] - [IP アドレス設定] の順にクリックして、デフォルトの IP アドレス設定を変更します。
- 5 [IPv4 アドレス] ドロップダウン メニューから、[構成を適用中に使用されるユーザー指定の IP アドレス] を選択します。
- 6 ホストが vCenter Server システムとは別のサブネット内にある場合は、[ネットワーク構成] - [Netstack インスタンス] - [defaultTcpipStack] - [DNS 構成] の順に選択し、[デフォルト IPv4 ゲートウェイ] テキスト ボックスにデフォルトのルートを入力します。
- 7 [ネットワーク構成] - [NetStack インスタンス] - [defaultTcpipStack] - [DNS 構成] の順に選択します。
- 8 [DHCP を使用する必要があることを示すフラグ] チェック ボックスが選択解除されていることを確認します。
- 9 ホストを右クリックして、[すべての vCenter アクション] - [ホスト プロファイル] - [ホスト プロファイルの添付] の順に選択します。
- 10 添付するプロファイルを選択して、[次へ] をクリックします。
- 11 IP アドレスとネット マスクを指定して、[終了] をクリックします。
- 12 ESXi ホストを再起動します。

カスタマイズされた IP アドレスが保存され、ホストに適用されます。

インデックス

A

Auto Deploy 16

V

vSphere Auto Deploy の固定 IP アドレス 24

vSphere Web Client 24

vSphere Auto Deploy、固定 IP アドレス 24

こ

コンプライアンス チェック、ホスト プロファイル 15

さ

作成、ホスト プロファイル 9

す

ストレージ ホスト プロファイル 24

へ

編集

ホスト プロファイル 12

ホスト プロファイルのポリシー 13

ほ

ホストのカスタマイズ 19, 24

ホストのカスタマイズのエクスポート 23

ホストのカスタマイズの編集 23

ホスト プロファイル

アクセス 9

コンプライアンスの確認 11

参照ホストからの更新 15

使用モデル 7

プロファイルの修正 12

プロファイルの編集 12

ホスト プロファイルからのホストまたはクラスタの
分離 11

ホスト プロファイル ビューからの作成 9

ホスト プロファイルへのホストまたはクラスタの添
付 10

ポリシーの編集 13

ポリシーの無効化 15

ホスト プロファイル、プロファイルの複製 15

ホスト プロファイル、概要 7

ホスト プロファイルのインポート 16

ホスト プロファイルのエクスポート 16

ホスト プロファイルの使用 9

ホスト プロファイルの設定 19

ホスト プロファイルへの設定のコピー 17

む

無効化、ホスト プロファイル ポリシー 15

り

リファレンス ホスト 8

リファレンス ホストの独立性 8

